

# 全体会

## 開会式

### 開会宣言

全国過疎地域連盟熊本県支部支部長・美里町長

上田 泰弘

### 主催者挨拶

総務大臣

寺田 稔

### 歓迎挨拶

熊本県知事

蒲島 郁夫





## 開会宣言

全国過疎地域連盟熊本県支部 支部長・美里町長

**上田 泰弘氏** (うえだ やすひろ)

皆様、こんにちは。ただ今御紹介いただきました、全国過疎地域連盟熊本県支部支部長を務めております、美里町長の上田でございます。本日はこのようにたくさんの皆様御出席の下、実に3年ぶりの対面での開催となります。この全国大会が熊本の地で開催できることを本当にうれしく思っておりますし、心から皆様には感謝申し上げたいと思います。それではただ今より「全国過疎問題シンポジウム 2022 in くまもと」を開会いたします。よろしくお祈りします。





## 主催者挨拶

総務大臣

寺田 稔氏 (てらだ みのる)

総務大臣の寺田 稔でございます。

「全国過疎問題シンポジウム 2022 in くまもと」の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

本日、御参加の皆様におかれましては、日頃より過疎対策をはじめ、地方行政全般にわたり格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

地方公共団体の関係者におかれましては、現場の最前線での新型コロナウイルス感染症対策に対する御尽力に、改めて敬意を表します。

また、本日、栄えある表彰を受けられる方々に対しまして、心よりお慶び申し上げます。

そして、本日、全国過疎問題シンポジウムが3年ぶりに実地で開催されますことを大変嬉しく思います。

開催に当たり御尽力いただいた、熊本県をはじめ関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

現在、我が国では、少子高齢化、人口減少が進み、とりわけ過疎地域において、その傾向が顕著となっており、地域社会を担う人材の確保などが喫緊の課題となっています。

これらの課題に対し、近年における過疎地域への移住者の増加、情報通信技術を利用した働き方の広がりなど、過疎地域の課題解決に資する動きを加速させていく必要があります。

そのため、昨年4月に施行された新たな過疎対策法では、「多様な人材の確保及び育成」や「ICTの活用」などを過疎対策の目標として追加し、過疎地域の持続的発展を実現するために全力を挙げて取り組むこととしています。

現在、岸田総理が掲げるデジタル田園都市国家構想は、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指しており、過疎化、高齢化の進む地域においてこそ、デジタル技術を活

用することで、様々な社会課題を解決し、地域の魅力を向上させていくことが期待されています。

総務省としましても、テレワークや遠隔医療を支える、光ファイバ等のデジタルインフラの整備を進めるとともに、「地域おこし協力隊」や、移住の相談窓口である「移住・交流情報ガーデン」の活用など、地方への人の流れの創出に取り組んでいます。

また、地域の資源と資金を活用して地域密着型事業の立ち上げを支援する「ローカル10,000プロジェクト」など、雇用と所得を確保できるよう様々な施策を引き続き推進し、過疎地域の地域づくりを応援いたします。

さて、今回の全国過疎問題シンポジウムですが、その副題として、「創造的復興の現場からメッセージ」という言葉があります。

平成28年に発生した熊本地震や令和2年7月豪雨からの創造的復興が進む熊本県において、過疎地域のこれからを担う人材育成、情報通信技術を活用した課題解決策や具体的取組事例について、活発な議論が展開されることを期待しております。

結びとなりますが、本日の議論が実り多きものとなり、皆様の今後の取組に活かされることを祈念申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。





## 歓迎挨拶

熊本県知事

蒲島 郁夫氏 (かばしま いくお)

「全国過疎問題シンポジウム 2022 in 熊本」の開催に当たり、開催県を代表し、歓迎の御挨拶を申し上げます。

本日は、全国各地から、御来賓をはじめ多くの皆様方に熊本県へお越しいただき、心から歓迎いたします。また、寺田総務大臣をはじめ関係者の皆様におかれては平素から過疎地域の振興のため、格別の御尽力と御高配を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、優良事例表彰を受賞される8団体の皆様方には、心からお喜びを申し上げます。

今回のシンポジウムは「過疎新時代 新しい時代の流れを力にする～創造的復興の現場からメッセージ～」というテーマで、本日から2日間にわたり開催されます。

過疎地域においては、人口減少や集落機能の低下など、様々な課題に直面している一方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うテレワークの普及等の影響により地方への関心が高まっており、情報通信技術を活用した取り組みなど、過疎地域ならではの新たな動きもあります。

このような流れを好機と捉え、過疎地域の可能性等について、気づき、再発見するとともに、人と人とのつながりを通じて将来に向けた取り組みを考える契機としていただきたいと思います。

本県では、熊本地震、新型コロナウイルス、そして令和2年7月の豪雨災害と、トリプルパンチに見舞われました。そのような中、本シンポジウムのテーマにあります“創造的復興”を、本日御参加の県内市町村の皆様とともに推進しています。

明日は水俣市をはじめ、宇城市、美里町、多良木町において分科会も開催されますので、是非、各地域の取り組みを御覧いただきたいと思います。

シンポジウム終了後は、お時間の許す限り、復興を遂げている県内各地を御訪問いただき、本県の豊かな自然、歴史・文化など、その魅力を体感していただければ幸いです。

終わりに、本シンポジウムに御参加いただきました皆様の今後の益々の御活躍・御発展を祈念いたしまして、歓迎の御挨拶とします。



# 全体会

## 令和4年度 過疎地域持続的発展優良事例 表彰式

総務大臣賞（4団体）

全国過疎地域連盟会長賞（4団体）



令和4年度

# 過疎地域持続的発展 優良事例表彰受賞団体





## 優良事例受賞団体講評

早稲田大学名誉教授・文学博士

**宮口 侗廸氏** (みやぐち としみち)

1946年富山県富山市(旧細入村)生まれ。

東京大学地理学科同大学院博士課程にて社会地理学を専攻し早稲田大学に勤務、1985年教授、その後教育・総合科学学術院長を歴任。2017年名誉教授。

国土審議会専門委員、大学設置審議会専門委員、自治大学校講師、富山県景観審議会会長、富山市都市計画審議会会長を歴任、2021年3月まで総務省過疎問題懇談会座長として、新しい過疎法の制定に尽力、地方の発展のあり方について発言を続ける。1985年から富山市在住。

『過疎に打ち克つ—先進的な少数社会をめざして—』(原書房)ほか著書多数。

委員長を仰せつかっております早稲田大学の宮口でございます。この表彰制度もう長く続いております。33回目と聞いておりますが、この間、私もかなり長くこの表彰委員を務めて参りました。毎年、候補団体を訪ねて、そこでの活動を直に伺うということが、私にとっては大変嬉しいことであります。

今年度も5人の委員が各地を訪ね、総務大臣賞4団体、過疎連盟会長賞4団体を選定させていただきました。

まず、総務大臣賞に輝いた「長野県根羽村」は、全戸が森林組合員で林業の6次産業化を進めておられます。そして移住コーディネーターが中心になって移住者の増加を実現し、過疎の奥地山村で非常に珍しく人口増を実現されました。社会増というのは最近かなりありますが、純粋な人口増というのは本当に珍しいことでございます。充実した住民の交流施設も設けられ、明るくて強いネットワークが形成されています。私はお訪ねして、村の雰囲気で大変感動して帰って参りました。

「岐阜県飛騨市」は、地元の困りごとの解決をインターネットで募集して外部の人に手助けしてもらおう「ヒダスケ」、飛騨を助けるということからきてるんだと思いますが、そういう制度を考案されて2年間で1,000人が参加されるという実績を上げておられます。旅費自弁で、都会からやってくる人が結構いるんです。市長

は「自己有用感」とおっしゃっていただけども、旅費自弁で地元の役に立ちたいという人が意外に多いということが、私は素晴らしい発見であろうかと思えます。都市農村交流の新しい形を作られたことに、敬意を表したいと思います。

大分県国東市の「くにさき地域応援協議会 寄ろう会」は、地域づくりを実践している12の団体が横につながって、webサイト「国東つながる暮らし」を立ち上げ、高齢者がそこでスマホの勉強会を重ねられて、それを使いこなしておられる。私は、これは新しいコミュニティの形成であり、特に高齢者のスマホへのチャレンジは素晴らしいと受け止めております。

徳島県勝浦町のNPO法人「井戸端塾」は、ひな人形を全国から集めて飾る巨大なひな壇のひな祭りを30年以上継続しておられます。すごい力です。これに恐竜化石を含む地層の発見で、恐竜の里ウォークラリーの活動が加わり、さらに、農園プロジェクト等を始動するなど、多彩な活動をしておられます。私は住民の底力かなと思いました。実際、以前この巨大ひな祭りを見せていただいたこともございまして、今回表彰に加わっていただいたことを大変喜んでおります。

次に、過疎連盟会長賞に移ります。

北海道積丹町の「美国・美しい海づくり協議会」と「余別・海HUGくみたい」は、廃棄物

であったウニの殻を肥料として再生し、ウニの餌となる昆布の養殖や藻場の育成に成功されています。積丹ウニの安定供給に貢献され、しかも技術を公開されているということが素晴らしい。地域資源の活用の好例とっております。

山梨県身延町の「五条ヶ丘活性化推進協議会」の活動は、アニメ「ゆるキャン△」の舞台となったことを活用しようと、看板やマップの制作、撮影場所の廃校舎でのキャンプの受け入れ等と、チャンスを生かした新鮮な活動をされました。このように、ロケ地であるなどのきっかけを掴むということも、大いに力が発揮できるスタートになるんだろうと思いました。

広島県北広島町の「100プロ」は、地域の子供を100人に増やすという非常に具体的で身近なことを掲げて発足したグループですけれども、自由に楽しくゆるやかなネットワークで実際に子育て世代の移住・定住を増やしつつあるということに、これも新しいやり方といいますか、新しい空気を感じました。

最後に、徳島県海陽町のNPO法人「あったかいよう」は、イベントやセミナーなどの開催

による賑わいづくり、高校生等の人材育成、お試し住宅などの移住者支援の3つを柱に、情報共有はアプリで無理なく行うなど、ここにもSNSの活用ということが加わってきていると思います。

過疎地域は減少を嘆いていてもしょうがありません。まず、今いる人たちがいい関係を築き、それに外部の人や移住者がいい形で絡み合っていけば、それこそが地域のパワーアップになります。数は減ってもパワーは増えるということを目指していただきたいとずっと考えて参りました。人と人の新たなつながりこそパワーのもとです。

そして最近では、SNSの活用がいい形で加わっている。それが非常に強いパワーの育成に役立っていると考えております。本年度もそのような素晴らしい表彰団体に多く出会わせていただいたということを喜び、そして表彰される方々に敬意を表しつつ講評とさせていただきます。ありがとうございました。





総務大臣賞

ねばむら  
長野県根羽村

ねばむら  
根羽村

ねばー ギブアップ



村の子供達と外部人材との協働により始まった「ハッピーマウンテン」づくり。外から見た村の魅力発信と、子供達の考えた新たな魅力づくりに地域が一体となって取り組んでいる。

### ◆事例の概要

根羽村の人口は昭和30年の3,282人をピークに減少の一途をたどり、令和4年1月には885人まで減少し、この解決の一助とするため外部人材の積極的な登用等による新たな地域づくりが始まった。

令和元年には地域おこし企業人制度（当時）の活用をきっかけに、派遣された社員が村へ移住し、外部から村の魅力・価値の再発見と情報発信が進められた。また、村の中間支援組織の立ち上げ運営に関わることとなり、一過性ではない外部人材との協働の大きな流れができた。

少子高齢化・地域産業の持続・地域の担い手確保といった中山間地では避けられない課題に取り組み、村への移住者や外部人材の生活拠点となる「トライアルハウス」を設けた取組等の多面的で先進的な活動が、関係人口の増加・移住施策の推進ともつながり、令和3年から令和4年にかけての人口増という成果を上げている。引き続き官民協働、流域連携による地域づくりが見込まれる。



愛知教育大学と協働で開発した「木のおもちゃ」の体験イベント。

## ◆評価のポイント

根羽村は長野県の最南端にあり、愛知側の矢作川の流域になる。村の面積の92%が森林で、全戸が根羽村森林組合員となって林業振興を図っている。森林組合は建築士・工務店と直結したトータル林業を展開し、各種の認証の取得、スギ・ヒノキのブランド化、木のおもちゃや木製布の制作・販売等6次産業化にも努力している。外部雇用を含めると50人近くが働く健全な企業といえる。なお組合長は村長であり、村と一体化した組織ともいえる。

総務省の地域おこし企業人（現地域活性化起業人）制度を活用して採用した男性が極めて有能で、任期を終えてからは移住コーディネーターとして、移住者の増加に大きく貢献している。本人自身が村という小さな地域社会のいい人間関係を求めて移住したことが強みである。加えてトライアルハウスという移住予備軍のためのシェアハウスの存在もあり、令和2年には社会増となり、令和4年1月までの1年間には10人の人口増を記録した。

移住コーディネーターからのSNSによる連絡でママさんワークショップなども行われ、様々な意見や要望が出るなど、活発な住民の交流が生まれている。住民が集まりやすい施設として、民家をリフォームした「くりや」があり、イベントの開催や放課後子供教室の場に、さらにワーケーションの場も用意されている。移住者を迎えようというソフト・ハード両面にわたる村の施策が想定外の人口増を生んでいると言える。職場の多くは人手不足で、産業振興施設ネバーランドなど就職先に困る状況にないのも強みである。

児童数の減少の中で村は、令和2年に小中学校を義務教育学校根羽学園として統合した。今は親子留学制度で愛知県安城市から3家庭4名が加わり、5年から教科担任の授業が行われるなど、少数精鋭の教育が行われている。農事組合法人杉っ子は、10人の農家の女性の集まりで、伝統食を中心に食品の加工販売と配食サービスを行っている。

多くの活動が村長のリーダーシップのもと横の連携を密に展開しており、小さな過疎山村の都市にはない価値と活気を感じることができた。強く評価したい。



外部人材登用の拠点となる「トライアルハウス」。個室6部屋と共同ダイニング等を備え、移住者の受入にもつながっている。



木の繊維を利用して作られた「木の布」。地域資源を活かした新たな産業とできるよう期待される。



外部人材を巻き込んで、官民協働、多世代が参加する地域づくりワークショップが新たに始まった。

## DATA

### 長野県 根羽村 (ねばむら)

団体名 ▶ 長野県根羽村  
 所在地 ▶ 〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村 2131 番地 1  
 連絡先 ▶ TEL : 0265-49-2111 FAX : 0265-49-2277  
 E-mail : soumu4102@nebamura.jp  
 URL : http://www.nebamura.jp/

#### 【交通のご案内】

自動車 ▶ 中央自動車道 飯田山本 IC 下車 国道 153 号線を愛知県方面へ車で 40 分  
 鉄道 ▶ JR 飯田線 飯田駅から車で 1 時間



#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
根羽村	3,059	1,773	1,380	1,129	970	852

(単位：人)

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
根羽村	-72.1	-51.9	-38.3	-24.5	-12.2

(単位：%)

#### ●高齢者・若年者比率 (R2年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
根羽村	51.48	7.08

(単位：%)

総務大臣賞

岐阜県飛騨市

## ひだし 飛騨市

人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支えあう  
「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ！」



飛騨市内の様々な困りごとをプログラム化し、全国の皆さんの力を借りて、交流をしながら解決する支え合いの仕組み。

### ◆事例の概要

「ヒダスケ！」は、困りごとや地域課題を交流の資源として捉え、人と人とのつながりと支えあいを構築する新しい活動で、地域外の方との接点をつくるために、観光や移住とは違う切り口から着想をした活動である。

市民の困りごとや地域の課題を解決するプログラムを住民が作成し、プログラム主催者が「ヌシ」、参加者が「ヒダスケさん」と呼ばれている。参加者には参加後「オカエシ」として主催者の創意工夫で用意する野菜等のお礼や電子地域通貨「さるぼぼコイン」を用意するなど、令和2年4月の運用開始から100以上のプログラムが生まれ、延べ1,000人を超える参加者があり、地域経済の一助となっている。

平成29年から「飛騨市ファンクラブ」を設立し、全国の10,000人を超える会員と交流を深めるとともに、ウェブ上でマッチングを可能にすることで、コロナ禍であっても地域や年齢の垣根を超えて、幅広く参加者を募集することができ、主催者・参加者にとって満足度の高い取組となっている。



お互い様の精神で、参加者には、主催者よりオカエシを手渡す。

## ◆評価のポイント

飛騨市は厳しい人口減少が続く中で、それを止めるために無理な施策を展開するよりも、地域外との交流をより重要視すべきと判断し、映画「君の名は」のファンが訪れる現象も踏まえて、飛騨市ファンクラブを平成29年1月に設立した。東京・大阪・岐阜さらに飛騨市で、市長などが参加する気軽なパーティのファンのつどいを開催し、会員はまもなく1万人に達する。

ファンクラブ会員との交流の中で地域に貢献したいという会員が少なからずいることに気づいた市職員の議論から、様々な困りごとの解決のために外部の人の力を借りるヒダスケが発案された。インターネットで事務局が、募集主(ヌシ)とその困りごと(集落の景観保全作業、農作物の収穫など)を配信し、それを手伝える意思のある人が参加者(ヒダスケ)となって現地に行くという仕組みである。令和2年4月にスタートし、2年間で107プログラムが実行され、延べ1038人がヒダスケとなって参加した。参加者は市からの地域通貨500円分とヌシなりのお礼(食事や野菜など)をもらう。旅費等は自費である。

農作物を貯蔵する板づくりの倉がある種蔵集落では、石垣の修復、ミヨウガ畑の手入れなどに多数のヒダスケが参加、岐阜大の教授と学生たちも参加した。いまは板倉の宿に五右衛門風呂をつくっている。ミニトマト農園では収穫期には随時お手伝いを募集して、連日の参加がある。飛騨みやがわ考古民俗館では展示の縄文時代に作られた石棒の撮影に多くのヒダスケが機材持参で参加している。企業定年後に移住した人の中には、ヒダスケとして参加しているうちに、周りとの会話からヌシとして納屋の修復を行った例も見られる。

なお、二日連続して異なるヒダスケに参加する場合に、ファンクラブの会員であれば1000円の地域通貨がもらえるという「お泊りヒダスケ」という取組みも開始された。このようにヒダスケが短期間に活況を呈したことは担当者の予想を超えることであったが、ヒダスケには地元の人でも参加するのでそこで交流の輪が広がり、多彩な行動が派生したことも価値がある。自己有用感が都会人の求めるものであったことの発見の意義は大きい。



「岐阜の宝もの」にも選ばれた日本の原風景。高齢化により景観を維持できなくなった石積みヒダスケで延べ189名が参加し復旧した。



一人暮らしの高齢者にとって、自宅の障子張りも一苦労。親子で参加し、子どもでも地域に貢献できることを実感することができる。



コロナ禍で直接参加することができないため、オンラインを活用し地元特産品「寒干し大根」のアンバサダーを募りPRのお手伝い。

## DATA

### 岐阜県 飛騨市 (ひだし)

団体名 ▶ 飛騨市  
所在地 ▶ 〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号  
連絡先 ▶ TEL: 0577-73-2111 FAX: 0577-73-7077  
E-mail: sougouseisaku@city.hida.lg.jp  
URL: https://www.city.hida.gifu.jp/

#### 【交通のご案内】

自動車 ▶ 東海環状自動車道 飛騨清見ICより約30分  
中部縦貫自動車道 高山ICより約15分  
国道41号 富山駅より約1時間50分 / 高山市街地より約20分  
鉄道 ▶ 高山本線特急ワイドビューひだを利用  
名古屋から飛騨古川まで約2時間40分  
富山から飛騨古川まで約1時間15分  
高山本線普通列車を利用  
飛騨高山から飛騨古川まで約15分  
猪谷から飛騨古川まで約50分  
飛行機 ▶ 東京から来られる場合  
羽田空港から富山空港まで約1時間  
富山空港からレンタカーで1時間30分

#### ●国勢調査人口

(単位:人)

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
飛騨市	49,391	38,384	30,421	26,732	24,696	22,538

#### ●人口増減率

(単位:%)

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
飛騨市	-54.4	-41.3	-25.9	-15.7	-8.7

#### ●高齢者・若年者比率 (R2年)

(単位:%)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
飛騨市	40.4	8.8



総務大臣賞

かつうらまち  
徳島県勝浦町

あ わ かつうら い ど ばたじゅく  
特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾

古代から未来へ、夢・想い・歴史文化をつなぐプロジェクト  
～恐竜化石とビッグひな祭りを活用した町づくり～



「ビッグひな祭り」会場中央に、大ピラミッド状の壮大なスケールで展示されているひな壇（25段×4面のピラミッド型、高さ8m）

◆事例の概要

人形文化の伝承と町おこしを目的に、30年以上にわたり毎年「ビッグひな祭り」を開催している。全国から家庭で不要になったひな人形をこれまでに30万体制回収し、供養して飾り、展示するこの活動は、近年取り上げられているサステナブルな取組の先駆けであり、3万人もの観光客が町を訪れている。開催期間中に当団体が発端となって、地元他団体などイベントを実施するなど、町全体を巻き込んで地域活性化に大きく寄与している。

また、平成6年に町内で発見された県内唯一の地域資源「恐竜化石」を用いて、恐竜情報や手作りの恐竜オブジェを飾る「恐竜の里」の整備や、県立博物館等との連携による専門知識を活かしたイベント活動を行うなどの町おこしも年々その規模が大きくなっており、勝浦＝恐竜のイメージへの取組が着実に進んでいる。

30年以上にわたり町の地域資源を活かした魅力の創出に貢献をしているとともに、今後も取組が次世代へ繋がるように自主的・主体的な活動を行っている。



コロナ禍で中止となったイベントチラシを再利用し、2mの「おひな様」を製作・展示している。

## ◆評価のポイント

春先になり多くのひな人形が段々に飾られる「ビッグひな祭り」の発端は、勝浦町が直面した昭和 56 年の大寒波にさかのぼる。町特産のみかんに壊滅的な被害が発生し、「このままではまちが消滅する」と危機感を抱いた町役場の若手が勉強会を始め、勝浦町から全国に発信できるものをもと、季節行事のひな祭りに目をつけた。家庭で不要となったひな人形を全国から集めて、百段のひな壇をメインに華麗に飾る「グローバルビッグひな祭り」は毎年趣向を凝らしながら 35 年近く継続し、今では 3 万体を会場に飾るまでになった。

飾りびなの取組は、町内各所だけでなく、「全国勝浦ネットワーク」として友好都市協定を結ぶ千葉県勝浦市や和歌山県那智勝浦町にも、メンバーが飾り付けの指導に訪問し、イベントとして定着している。また、阪神淡路大震災をきっかけに被災地に人形を贈ったり、リオデジャネイロ・オリンピックでは、現地の交流拠点にひな壇を飾り、現地の人たちに人形の里親になってもらう、まさに「グローバル」に人形がつなぐ交流も生まれている。

運営母体も、平成 3 年に町の活性化グループ「阿波勝浦井戸端塾」が引き継ぎ、平成 14 年には法人格を取得し NPO 法人となり、町内の木工所跡地を人形文化交流館に仕立てて活動拠点を築いた。その隣には道の駅ひなの里かつらが整備され、その指定管理者として運営にも関わり、地域内外のさまざまな主体が集う場にも成長している。

勝浦町では、白亜紀前期の恐竜「イグアノドン」の歯の化石が四国で初めて発見され、さらに、平成 30 年に恐竜化石を含む地層（ボーンベッド）が発見されたことから、国内最古級の地層が分布し、「日本一化石が出ている町」として今後の期待が高まっている。井戸端塾でも、発掘現場近くに公園を整備し、「恐竜の里」として開放したり、化石発掘体験やジオラマづくり体験なども提供する。

井戸端塾は、「グローバルビッグひな祭り」を起点に町の知名度を高め、地元密着の資源である恐竜化石という新たなコンテンツを得て、地域資源の価値も高めてきた。メンバーの減少と高齢化が課題だが、近隣の大学生や県職員のボランティア参加も積極的に受け入れ、前向きに挑戦を続ける。どの活動にも時代の変化も捉え常に新たな発想を追及する姿勢が貫かれ、次世代に繋げる今後の展開を大いに期待したい。



これまで世界 30 カ国以上にひな人形を寄贈。またリオ五輪や東京五輪でも現地にひな壇を設置し文化交流に貢献している。



自然と融合した「恐竜の里づくり」に取り組むとともに、平成 30 年に発見された日本最古級の「ボーンベッド」の徳島県が行う化石の発掘作業に協力している。



平成 13 年度から「恐竜の里ウォークラリー」を毎年開催し、子供から大人まで多くの参加者と交流を図っている。

## DATA

### 徳島県 勝浦町 (かつうらちょう)

団体名 ▶ NPO 法人阿波勝浦井戸端塾  
所在地 ▶ 〒771-4303 徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字月ノ瀬 35 番地 1  
連絡先 ▶ TEL : 0885-42-4334 FAX : 0885-42-4334  
URL : <https://bighinamaturi.jp/>

#### 【交通のご案内】

自動車 ▶ 徳島 IC から国道 11 号、55 号を南下、勝浦川橋南詰交差点を右折し県道 16 号線を進む。(徳島市から約 30 分)  
飛行機 ▶ 徳島阿波踊り空港から空港バスで JR 徳島駅を経由し徳島バス勝浦線「勝浦町役場前」下車 (JR 徳島駅から約 60 分)



#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
勝浦町	9,646	7,811	6,736	5,765	5,301	4,837

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
勝浦町	-49.9	-38.1	-28.2	-16.1	-8.8

(単位：人)

#### ●高齢者・若年者比率 (R2 年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
勝浦町	44.0	10.6



くにさきし  
大分県国東市

# くにさき地域応援協議会 寄ろう会

地域づくり支え合い活動共通WEB サイト“国東つながる暮らし”（海・山・川・歴史・そして繋がる人々の暮らし）



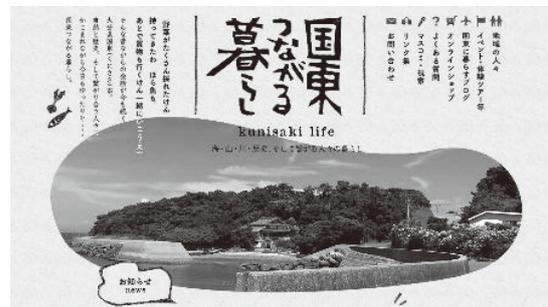
地域住民が自ら情報発信していくため、世代間交流を含めたスマホ教室を定期的に開催している。楽しみながら学べる環境を整備したことで、地域の活動に参画するきっかけにつながっている。

## ◆事例の概要

国東市では住民同士の支え合い活動（居場所づくりや生活支援）を基幹事業に、生活圏域毎で地域づくり支え合い活動を住民主体で進めており、平成 30 年 3 月より市内全域の情報共有を目的に本団体が設立された。

地域住民が主体となり、スマホ教室など情報発信を楽しみながら学べる環境づくりを創出し、スマホ教室がきっかけとなり、これまで地域づくりに消極的な地域も積極的に参画するよう変化してきている。また、『誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化』の実現に向けて、SNS インスタグラムを活用した地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト“国東つながる暮らし”を制作・公開している。

地域づくり支え合い活動の可視化によって、現在は、いつまでも誰もが安心して生活が出来るよう、高齢・過疎化が進む中でスマホ取扱いデジタル対策に向けて買物支援や移動支援、通院支援、防災などで SNS 等を含めた情報の一括管理が行えるシステムづくりについても検討しており、多方面での効果が期待される取組を行っている。



共通 WEB サイト“国東つながる暮らし”トップページ

取組の詳細は、下記をご参照ください。



## ◆評価のポイント

大分県国東市の「くにさき地域応援協議会寄ろう会」は平成 28 年から平成 29 年の準備期間を経て、平成 30 年に本格的にスタートした団体である。「よろうえ」は国東市の方言で「あつまろう」の意味。その主な目的は、国東市で地域づくりを実践している 12 の団体が集まり、国東市全域で地域づくりを応援していこうというものだ。また、「くにさき地域応援協議会寄ろう会え」の進行とともに、令和 2 年にはこれまで地域おこし協力隊であった人や、積極的に地域づくりを支援していた人たちによる「地域支援サポーター」が制度として登場し、若い世代が混じり、各地域の活動の展開と横のつながりを広げていく効果がもたらされるようになった。

地域づくり支え合い活動共通 WEB サイト「国東つながる暮らし」は、このような立体的な関係性のなかからニーズが見つけられ、2021 年 4 月に誕生したローカルメディアである。大きな狙いとしては「情報共有と情報発信」「モチベーションの維持」「自主財源の確保」「移住促進」等が挙げられるが、現地を訪れて、特に要点である「高齢者にインターネット、スマートフォンに親しんでもらう」が非常に効果を表していると感じた。

竹田津地区公民館で行われていた「スマホ教室」では、男女 20 名程の地域の高齢者の方がスマートフォンを片手に熱心に操作を学び、また、互いに教え合っている姿が印象的だった。「孫とラインができるのが楽しみ」「娘に教えてもらうのがよいコミュニケーション」「画像や映像で畑や田んぼの現在の様子を共有できて便利」などといった意見と成果が聞け、高齢者の地域の日常に SNS やデジタルが自然に溶け込んでいた。特にInstagramの利用率と投稿率の頻度にはすばらしいものがある。日々、それぞれの地域のいまを、穏やかに伝えてくれ、すべて地元の高齢者の方を中心とした、土地を愛するメッセージにあふれている。これ以上の良質で本質的な発信はなかなかない。国が進めているデジタル田園都市国家構想のひとつの自主的なお手本と言ってもいいだろう。「誰もが地域で幸せに暮らせる」という、先のウェルビーイングまで見据えられているローカルデザインだと思う。

「国東つながる暮らし」は各種イベントによる関係人口の拡大や EC サイトでの地域経済の向上の仕組みも実装され、今後のウィズコロナの状況もよく勘案されている。国東のそれぞれの地域の自主性と自律性がメディアから立ち起こり、より協創的なコミュニティへと発展していくこの伸びやかさに、今後も期待している。



寄ろう会では、各団体の代表が集まり、情報共有・課題等を協議している。



共通WEBサイト「国東つながる暮らし」ポスター



支え合い活動（居場所づくりから誕生した生活支援）

DATA

## 大分県 国東市（くにさきし）

団体名 ▶ くにさき地域応援協議会寄ろう会  
 所在地 ▶ 〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川 149 番地  
 連絡先 ▶ TEL : 0978-72-5189（国東市高齢者支援課）  
 FAX : 0978-72-5171  
 E-mail : koureisien@city.kunisaki.lg.jp  
 URL : https://yoroue.com/

### 【交通のご案内】

自動車 ▶ 大分空港道路（終点：安岐交点）から約 20 分  
 鉄道 ▶ JR 杵築駅から車で約 40 分。または杵築駅バスターミナルより大分交通「国東」行きに乗車し約 1 時間。  
 飛行機 ▶ 大分空港から約 15 分

### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
国東市	58,786	40,504	35,425	32,002	28,647	26,232

### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
国東市	-55.4	-35.2	-26.0	-18.0	-8.4

（単位：人）

### ●高齢者・若年者比率（R2 年）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
国東市	43.1%	9.5%



全国過疎  
地域連盟  
会長賞

北海道積丹町

びくに  
美国・美しい海づくり協議会  
よべつ  
余別・海HUG くみたい  
資源が循環するまちづくり



将来まで持続できるウニの生育環境を守り、育てる取組として、海中肥育による生産にも力を入れている。

◆事例の概要

積丹町は基幹産業である漁業を中心に発展してきた町であり、観光客入込数は令和元年度に120万人を超え、毎年6月から8月のウニ漁業の期間に集中している。

この期間に来訪する観光客の多くが高級ブランドとして知られている「積丹ウニ」を求めて町内の飲食店を訪れており、「積丹ウニ」の人気や需要に応えるためには、安定的な生産や供給体制の確立を図る必要があった。このため、浅海漁業者で組織した2つの活動団体が、平成27年からウニ殻を肥料としたコンブの養殖や藻場造成を行うとともに、生産したコンブをウニの餌料にする資源循環の取組を進めており、漁業生産等の経済的効果に加えて、生態系保全機能と環境保全機能が期待されている。

これまで廃棄物として扱われてきたウニ殻から新たな価値を創出するなど、地域が一体となって循環型社会の実現に向けて取り組むことにより、過疎地域の持続的発展に寄与している。



積丹町マスコットキャラクター「うにどん」と一緒に。

## ◆評価のポイント

北海道積丹町は日本海に突き出た「積丹半島」の最先端に位置する町であり、漁業、とりわけウニ漁業を基幹産業として発展してきた地域で、毎年6月～8月のウニ漁の期間には、120万人を超える観光客が集中して訪れる。

廃棄物として処分されているウニの殻を「ウニ殻肥料」として再生し、ウニの餌料となる昆布の養殖や、藻場の育成などに有効活用する資源循環の取組は、北海道職員出身で、地域おこし協力隊を経て、現在は集落支援員の男性が中心となって、「美国・美しい海づくり協議会」「余別・海 HUG くみたい」の漁業者と共にやっているもので、積丹ウニの安定生産、安定供給に多大に貢献していると共に、その技術を公開し、磯焼けに悩む全国の漁場の手本にもなっている。

また、地域の事業者が、ウニの餌となるホソメコンブを羊の飼料として使用することで上質な羊肉を生産するなど、畜産業や他産業との連携により、新たな産業創出も期待されている。

今後は、ホソメコンブ養殖の副産物である海藻「ダルス」の6次産業化商品開発や、ウニの最盛期以外でも人を呼ぶことができる町づくり、また、現在は人力で行われているウニ殻肥料製造に関しては、ウニ殻の集積から製造プラントでの製造などの事業化の実現に大いに期待をしたい。

また、積丹町のボタニカルをふんだんに取り入れたクラフトジンの事業者をはじめ、地域おこし協力隊が中心となったニシン番屋を再利用する取組、積丹町地域活性化協議会など、積丹町にはウニだけではなく、魅力的な人材や地域資源が溢れている。「美国・美しい海づくり協議会」「余別・海 HUG くみたい」には、これらの積丹町の宝と、今以上に積極的に連携をとりながら、積丹町の理念「自然、人、産業の和で築くまち」づくりに寄与して行くことを期待したい。



磯焼け漁場でホソメコンブ群落が再生されたことにより、ウニ殻の肥料効果が検証された。



天然ゴムで成型したウニ殻肥料を自作し試験を実施。経済性や効率性に優れ、何より漁業者自らの手による効果を実感。



養殖ホソメコンブは畜産肥料としても利用。漁業生産から生態系保全にも配慮した循環型再生産の取組をリアルに実践中。

## DATA

### 北海道 積丹町 (しゃこたんちょう)

団体名▶①美国・美しい海づくり協議会  
②余別・海 HUG くみたい

所在地▶①〒046-0201 積丹郡積丹町大字美国町字船澗 1546-1 番地  
②〒046-0322 積丹郡積丹町大字余別町 663 番地

連絡先▶TEL：0135-44-3382 FAX：0135-44-2125  
E-mail：nourin@town.shakotan.lg.jp

#### 【交通のご案内】

自動車▶後志自動車道 余市 IC より約 30 分  
札幌市より国道 5 号・229 号で約 2 時間

鉄 道▶函館本線普通列車を利用  
小樽駅で下車後、バス利用で約 1 時間 20 分

#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
積丹町	8,070	4,910	3,149	2,516	2,115	1,831

(単位：人)

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
積丹町	-77.3	-62.7	-41.9	-27.2	-13.4

(単位：%)

#### ●高齢者・若年者比率 (R2 年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
積丹町	46.9	8.1

(単位：%)

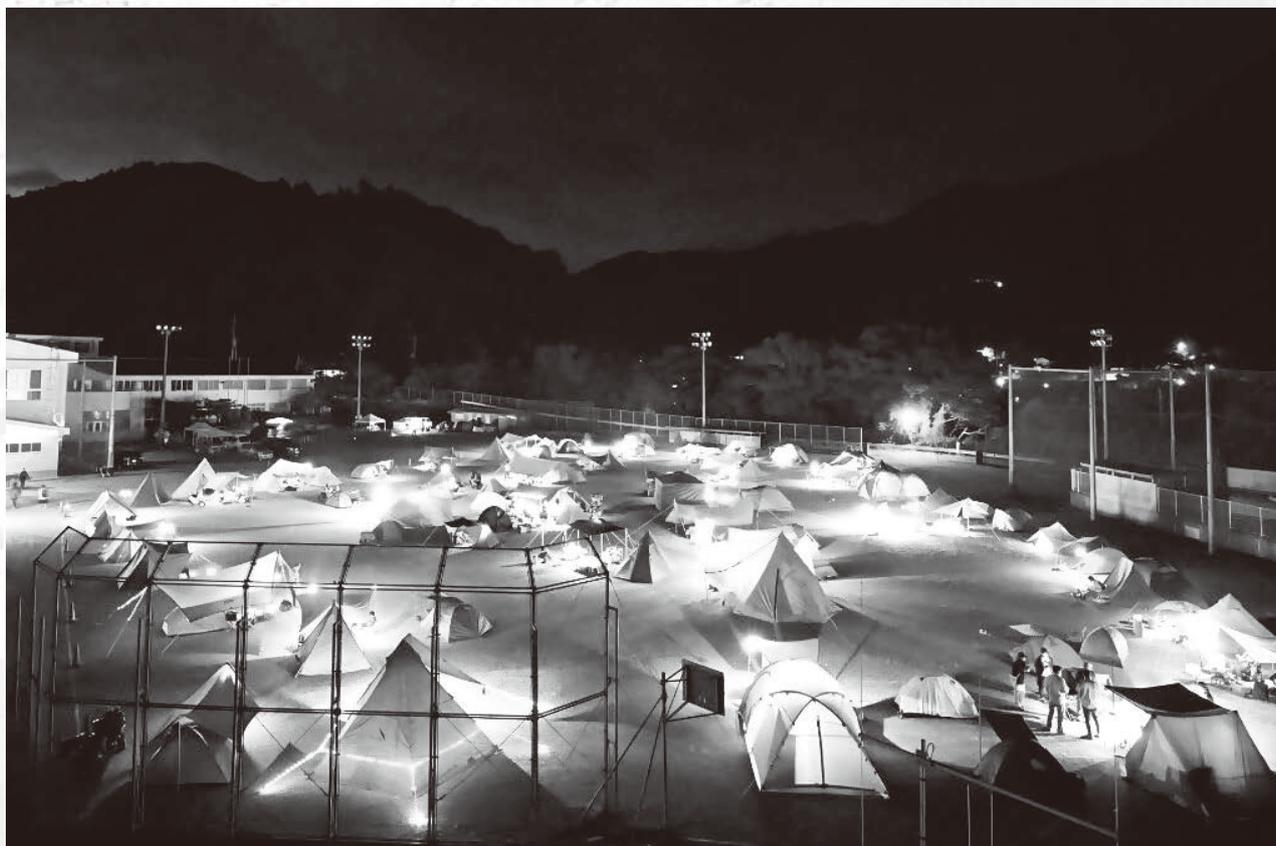
北海道積丹町

全国過疎  
地域連盟  
会長賞

山のぶちょう  
山梨県身延町

## ごじょうがおか 五条ヶ丘活性化推進協議会

地域住民とともにつくる「身延愛」の推進



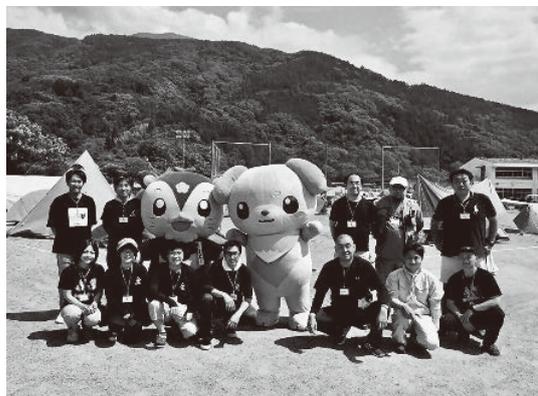
閉校で使われなくなった校庭でキャンピングイベントを実施。地域資源の利活用により、地域特性を踏まえた独自の取り組みを展開している。

### ◆事例の概要

五条ヶ丘活性化推進協議会は人口減少や少子高齢化により、町内にある複数の小中学校が統合により廃校となったこと、また、地域にあった多くの商店等が閉店して地域の活力が大きく低下していることなどを踏まえ、地元の観光資源や施設等を活用した取組を行い、地域活性化を図ることを目的に設立された団体である。

廃校舎を活用した校庭キャンプの実施や地域の情報を載せた手作り地図の配布など、地元の資源や施設を活用した取組を行っており、活動により全国からの訪問者が訪れるなかで地域の住民におもてなしの心を訴え、それが評価されていくことで地域住民に自信と誇りが醸成されている。

行政が運営を主導するのではなく、運営の全てを協議会が担っており、地域活動を通じて地域リーダーの育成や発掘を行い、持続可能なまちづくりに寄与し、まちを担う人材の確保、人の流れの創出による経済の活性化等、地域活性化につながる先進的な取組を行っている。



「過疎の地域だからこそ、私たちが何とかしなければ」との思いで、20代から40代の約20名が積極的に活動を行っている。

## ◆評価のポイント

山梨県の南部に位置する身延町は、「あけぼの大豆」に代表される伝統食材や「西嶋和紙」などの産業が古くから伝承されてきた地域であると共に、仏教の荘厳な雰囲気や、下部温泉郷を有する湯治場としての顔も併せ持つ。

少子高齢化や過疎化により、町内の複数の小中学校の統廃合が進み、地域の活力の低下が町の課題であった折に、廃校になった旧身延町立下部小中学校を拠点に、高校生たちのキャンプ活動を描いた漫画原作のアニメ「ゆるキャン△」の舞台になったことをきっかけに、旧下部中学校の卒業生を中心に「五条ヶ丘活性化推進協議会」を立ち上げ、モデル地巡り（いわゆる聖地巡礼）をする旅行者に対して、アニメの場面を掲載した案内看板の設置や手作りマップの配布など、地域住民を巻き込んだ様々なおもてなし活動を行いながら、「ゆるキャン△」ファンが「身延町のファン」になるような魅力的な取り組みで、地域、観光振興に寄与している。

驚くべきは、行政に頼らない自立したイベントプログラムの数と充実した内容で、地域住民を巻き込んだ「ゆるキャン△」のドラマ、映画などへの撮影協力では、廃校になった下部中学校にロケセットがそのまま残されており、校庭にテントを張ってキャンプができるといった廃校活用の取組は、アニメファン垂涎のイベントとなっている。また、アニメの制作会社と協力しながらの「ゆるキャン△」関連イベントが充実している一方で、取組はアニメの人気活用だけにとどまらない。

地で大切に守られてきた食材「あけぼの大豆」の枝豆が一番美味しい時期に、直売会などと連携したイベントを創出したり、道の駅にキャンプ場を整備したりと、身延町の他の地域資源とも密接に連携し、地域住民と共に作り上げる活動は、コロナ禍にあっても年間 15 ～ 20 件の実績を誇る。

小説や映画の舞台となった地域が、作品を地域おこしに活用している事例全国各地にあるが、住民が置き去りにされている取組も多い。五条ヶ丘活性化推進協議会の取組は、地域側から発信した題材が連載中の原作に登場するなど、作品人気を利用するだけではなく、これまでの取組で築き上げてきた、地域住民や制作会社との信頼関係を示すような相互の好循環までも生み出している。取組を「ゆるキャン△」人気だけに依存せず、地域に今ある資源をフル活用しながら、未来を見据えた地域ビジネスに昇華させている点においても、地域への想いに溢れた稀有な事例であり、他地域の手本となると高く評価したい。



アニメ「ゆるキャン△」をきっかけに多くのファンが訪れるようになった。地域の「おもてなし」環境充実のため、看板の設置（22ヶ所）や地図の配布（約5.2万枚・16版）を行っている。



参加者と地域をつなげるため、「みのぶ」の魅力を発信している。イベントへの地元飲食店等の出境、SNSやプレゼント会等を通じ、地元の特産品等を積極的にPRしている。



これまでに校庭キャンプやアニメ「ゆるキャン△」キャラクターの誕生日会等のイベント（約30回）を実施し、過疎地域への更なる誘客促進を目指している。

## DATA

### 山梨県 身延町（みのぶちょう）

団体名▶ 五条ヶ丘活性化推進協議会  
所在地▶ 〒409-2936 山梨県南巨摩郡身延町常葉 439 常幸院内  
連絡先▶ TEL：090-4361-6499  
E-mail：5jogaoka@gmail.com  
URL：https://www.facebook.com/5jogaoka

#### 【交通のご案内】

自動車▶ 中部横断自動車道 下部温泉早川 IC より約 10 分  
鉄道▶ JR 中央本線（特急）新宿駅から甲府駅約 90 分  
JR 身延線 甲府駅から甲斐常葉駅約 70 分



#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
身延町	35,616	23,222	18,021	14,462	12,669	10,663

（単位：人）

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
身延町	-70.1	-54.1	-40.8	-26.3	-15.8

（単位：％）

#### ●高齢者・若年者比率（R2年）

（単位：％）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
身延町	47.5	8.7

全国過疎  
地域連盟  
会長賞

きたひろしまちょう  
広島県北広島町

# 100 プロ

地域の児童数を 100 人に！



正直、何をすれば良いかなんて分からないけれど、子どもたちの未来のために僕らは動き始めます！！（写真：自然体験・ドラム缶風呂）

## ◆事例の概要

平成 30 年に新庄小学校の保護者であった 3 人が、このままでは小学校の児童数が減少し、3 年後にはすべての学級が複式になるという状況を防ぐため、10 年後の児童数を 100 人に増やすことを目的に立ち上げたのが本団体である。

現在は旧大朝町全体の児童数を増やす活動に広がっており、若年層から高齢者までの幅広いメンバー約 60 人が参加する。団体内に役職は設けず、やってみたい人が「この指とまれ」方式にてチームを組みながら、自由に活動を行っている。

「魅力ある地域、魅力ある教育、住む場所」というテーマを基に情報発信し、この地域ならではの「人の好き・自然・風景」を活かしながら、自然体験プロジェクト・移住者を孤独にさせないための女子会プロジェクト・カレンダー&写真展プロジェクトなど、子育て世代をはじめ若者の移住・定住者を増やす活動を行っており、地域団体や学校との連携、交流人口・関係人口の創出に取り組んでいる。



地域の魅力を発信する（写真：写真展&カレンダープロジェクト）

## ◆評価のポイント

100 プロとは、地域の子どもを100人に増やすことを目的としたプロジェクトである。当時小学校の生徒が年々減少しており、小学校のPTAを務めていた保護者など当事者意識を持った3人が危機感を覚え、立ち上がったのがはじまりで、地域の住民や移住者、小中高校といった多彩なプレーヤーとともにプロジェクトを展開している。

現在は若い世代から高齢者まで幅広いメンバー60人が参加しており、なかでも評価できる点は大きく3点挙げられる。

1 点目は、役職に縛られないチームのつくり方である。自然体験や、地域自慢の写真カレンダー&写真展、エコマーケットや工作教室、人材バンクといった8つのプロジェクトが立ち上がっているが、「やりたい人がリーダー」との言葉通り、「この指とまれ」方式による、やりたい人がやりたいプロジェクトを楽しんで実践している。そこに集うゆるやかなネットワークが100プロを形成している。ヒエラルキー型とは異なるフラット型ともいえる現代らしいチームのつくり方であり、だからこそ無理なく続けることができているのではないかと考えられる。

2 点目は、活動をするに当たって、活動の年間計画をつくっていないことである。それは活動を義務化すると楽しくなくなるからであり、徹底して「やりたい」「楽しい」「ワクワク」の3点を大切にしている。そのことによって、新旧のさまざまなプレーヤーとつながり、輪が広がっていている点も興味深い。

3 点目、活動を開始してから10年後である2028年に活動をいったん区切るとしている点も、重要な視点であると考えられる。10年という一定の期間を見据えてゴールを区切る方が、しっかりと集中して取り組んでいけるという思いからだという。

以上のチームのつくり方、楽しさを大切にする、ゴールを区切る、この3点だけでも持続的に地域で活動を続けていくエッセンスが詰まっていると言えるのではないだろうか。「ワクワクするところに人は集まる」ということを体現している。

今後のビジョンには、活動を次世代につなげていくためにも「創造家をつくる」と掲げ、人材育成に力を入れることや、夢を堂々と語る地域づくりを進めるとしている。このビジョンについても、これからの過疎地域を考える上で非常に本質的なあり方を示していると考えられ、評価したい。



結婚・移住・子育て、不安がない人なんていないよね。おいしいご飯を食べて、気軽におしゃべりしながら、新たなコミュニティを楽しもう♪ (写真：女子会プロジェクト)



夏・火起こし、川遊び、ドラム缶風呂&冬・雪遊び、体験して育つ子供たち！ (写真：自然体験プロジェクト・火起こし体験)



かつて校庭にあった木を使って「しおり」を製作。地域の卒業生にプレゼント (写真：しおりプロジェクト)

## DATA

### 広島県 北広島町 (きたひろしまちょう)

団体名▶100プロ  
所在地▶〒731-2102 広島県山県郡北広島町岩戸 1133-1  
連絡先▶TEL：070-9005-1634  
E-mail：1973ryozan903@gmail.com

#### 【交通のご案内】

自動車▶浜田自動車道 大朝 IC より約10分  
鉄道▶JR可部線利用  
広島駅から可部駅まで約45分  
可部駅から、車で約1時間  
飛行機▶広島空港から車で約1時間30分

#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成22年	平成27年	令和2年
北広島町	35,696	23,743	21,929	19,969	18,918	17,763

(単位：人)

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
北広島町	-50.2	-25.2	-19.0	-11.0	-6.1

(単位：%)

#### ●高齢者・若年者比率 (R2年) (単位：%)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
北広島町	39.12	12.66



全国過疎  
地域連盟  
会長賞

かいようちよう  
徳島県海陽町

## 特定非営利活動法人あったかいよう とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに



美しい海や山など海陽町の魅力をたくさんの人に知ってもらうため、新たなガイドツアーを企画し、ツアーガイドを養成する「ガイドインストラクター事業」を実施。

### ◆事例の概要

平成 27 年度に実施した、地域住民と行政が連携して地域の課題解決について考える『海陽町みらい会議』を前身とし、平成 28 年度に住民たちが、自分たちのみらいをより良いものにするために自主的に立ち上げた団体である。

①にぎわいづくり、②人材育成、③移住者支援が活動のメインの柱であり、①では各種イベントの開催の他に、自然インストラクターの育成や DMV の PR 等に関わっており、②ではひとり親世代向けに料理教室の開催や、外国人技能実習生などを対象とした日本語教室を開催し、地域住民の重要な交流の場となり、③ではお試し住宅の「いもちの家」を運営し、移住希望者に町でのくらしを体験してもらう取組を行っている。

イベント開催からしごとづくり、町の賑わいを伝えるための人材育成、移住や多世代交流の支援まで、地域を元気にするための取組を行っている。



豊かな自然を次世代に伝えるため、地元の学生と海岸清掃（ビーチクリーン）を実施。

## ◆評価のポイント

NPO 法人あったかいようは、海陽町が地方創生関連で町民に呼び掛けたみらい会議の開催をきっかけに、平成 28 年に設立されたまちづくり団体である。みらい会議では、町民有志 54 名が参加し、ふくし・にぎわい・しごとなど 6 部会で熱心な話し合いが重ねられ、「その実践拠点が必要」という声から NPO が立ち上がった。「とくしま南を、海が見える「あったかい」まちに」を目指し、海陽町に住む人たちが自分たちのみらいをより良いものにしようと、主に 3 つの柱で活動を進めている。

1 つ目は、多世代交流を意識したにぎわいづくり。文化継承や体験のインストラクターを教育旅行やイベントに提供したり、町内の資源をガイドツアーで巡るプログラムを構築するなど、町内各所に活動が及んでいる。2 つ目は人材育成の場。子どもたち向けの学びや遊びの場づくりや、海ゴミリーダー養成講座を開催してビーチクリーンの活動につなげるなど、大人から子どもまで、まちの中で動ける人たちを増やしている。3 つ目は移住者支援。移住相談、町内の空き家調査や片付けサポート、移住お試し住宅の運営など、行政とともに充実した受け入れ体制づくりを進めている。さらに近年では、食品製造・加工企業で働く外国人が増え、町での暮らしに馴染めるように、日本語教室や文化体験、防災講座といった多文化共生の活動にも広がりを見せる。

町内にはボランティア活動の主体も多く、そこに対しても NPO は相互につながって、情報発信やサポート役を担う。加えて、個々のやりたいことを起点として、共感できる仲間と動き出し、それが結果として地域コミュニティの課題解決につながるプロセスが随所に見られている。活動に関わった子どもたちも今では高校生に成長し、年下の子どもたちの世話にまわる人材還流も起きている。NPO では、「楽しいが一番。遊び心で」「誰かのために、自分のために」をモットーに、40 名あまりの会員が自発的に、自分のできることを実践し、まちの人脈や知恵、知識が共有されるプラットフォームとして、「孤立しにくい」環境をみんなで作ろうとしている。

過疎地域においても、子どもたち、移住者、外国人など地域の多彩な人たちが関われる社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）の場づくりが求められ、そのしなやかな実践として各地に共有できる好例と言える。



移住相談、空き家案内だけでなく、お試し移住施設「いもちの家」を運営。漆喰塗や写真展などを企画し、地域交流の場としても利用している。



世界初の DMV が走る町海陽町として、地域の皆さんと沿線を取り組んだ「穴喰駅フラワーパーク」事業。DMV 始発駅となる「阿波海南文化村」でのワークショップやイベントも開催。



移住してきた外国の方を対象にした、簡単な「日本語教室」を企画し、日本文化に触れながら、地域の人と楽しく交流できる機会を提供している。

## DATA

### 徳島県 海陽町 (かいようちょう)

団体名 ▶ NPO 法人 あったかいよう  
所在地 ▶ 〒775-0302 徳島県海部郡海陽町奥浦字堤ノ外 32  
連絡先 ▶ TEL : 0884-70-1413 FAX : 0884-70-1413  
E-mail : support@attakaiyo.org  
URL : http://attakaiyo.org/

#### 【交通のご案内】

自動車 ▶ 徳島自動車道 徳島 IC から国道 55 号で約 2 時間  
鉄 道 ▶ JR 四国牟岐線 各駅停車で阿波海南駅約 2 時間 30 分  
(乗り継ぎ時間により、時間は前後します)  
飛行機 ▶ 徳島阿波おどり空港から国道 11 号と国道 55 号を経由し車で約 2 時間

#### ●国勢調査人口

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
海陽町	19,485	14,397	12,104	10,446	9,283	8,358

#### ●人口増減率

市町村名	R2/S35	R2/S55	R2/H12	R2/H22	R2/H27
海陽町	-57.1	-41.9	-30.9	-20.0	-10.0

(単位：人)

#### ●高齢者・若年者比率 (R2 年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
海陽町	46.6	6.4



徳島県海陽町

